

2 | 早期避難には 日頃の備えが大切!

最低3日、推奨1週間家庭内備蓄を



大規模災害時は、ライフラインの復旧まで時間がかかります。最低3日、できれば1週間分の備蓄品を用意しましょう。

また、日常生活の中で、古い備蓄品を消費しながら補充する「ローリングストック」を行うと賞味期限切れを防ぐことができます。

非常持ち出し品と避難ルートを確認を



津波発生時など、自宅から避難が必要となる場合もあります。いち早く避難するために非常持ち出し品を準備しましょう。

また、ハザードマップで浸水想定区域外までの避難ルートや避難場所を確認しておくことも大切です。

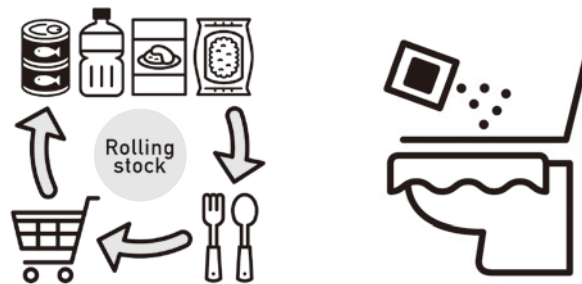
津波避難ビルは体の不自由な方へ



浸水想定区域内には28の「津波避難ビル」がありますが、この施設は、体が不自由であったり、救助活動に従事して、避難が間に合わない方が緊急的に避難する場所です。市民のみならずすべてを収容できる施設ではありませんので、浸水想定区域外までの早期避難をお願いします。

3 | 防災研修 受付中

市では、町内会などの防災研修に職員が出向き、防災ハンドブックやハザードマップの解説を行っています。クイズなども交えながら楽しく学ぶことができます。少人数でも対応していますので、ぜひお申込みください。



4 | 防災ラジオ無償貸与をはじめます。

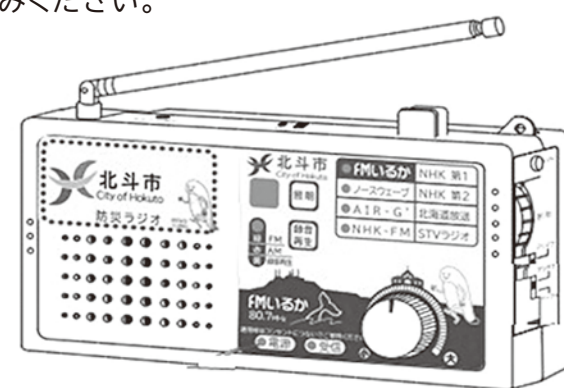
防災ラジオは、防災無線を流した際、自動的に電源が入り同じ内容が流れるものです。無償貸与の対象者には、ご案内の文書を送付しています。希望される場合は、申請書に必要事項を記入の上、お申込みください。

防災ラジオの特徴

- 緊急情報は最大音量で流れます。
 - 自動録音機能で聞き逃しても確認ができます。
 - 毎月試験放送を流すので、自動起動の確認ができます。
- ※試験放送は通常音量

防災ラジオで発信する情報

- 緊急性の高い
- Jアラート情報(緊急地震速報・弾道ミサイル等)
 - 避難情報(避難指示等)



イベントのお知らせなどは、屋外で防災無線で放送していても、防災ラジオは起動しませんので、あらかじめご承知願います。

問 北斗市役所総務課交通防災係 [内線212～215]

災害に備えて 北斗市 NEWS

防災



津波避難計画が改訂されました

日本海溝・千島海溝周辺では、過去にマグニチュード7から8を超える巨大地震や揺れが小さくても大きな津波が生じる津波地震など、多種多様な地震が発生してきました。

国は、地震・津波対策について「あらゆる可能性を考慮した最大クラスを想定する」としており、日本海溝・千島海溝沿いで巨大地震が発生した場合、北斗市では最悪1万8千人の方が津波で亡くなる被害想定が出されていますが、早期避難率を高めることで被害を大幅に減少させることができます。

日頃からの「備え」と「心構え」をしっかり行いましょう。

1 | まずは正確な防災情報の入手を!

警報・注意報	予想される津波の高さ	
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現
大津波警報 (特別警報)	10m超 (10m<予想高さ)	巨大
	10m (5m<予想高さ≤10m)	
	5m (3m<予想高さ≤5m)	
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い
津波注意報	1m (20cm<予想高さ≤1m)	(表記しない)

災害時は「最新の正しい情報」を入手し、早めに避難することが大切です。津波発生が予想される場合、地震発生後、約3分で大津波警報・津波警報または津波注意報が発表され、その後「予想される津波の高さ、到達予想時刻」などが発表されます。これらの情報は、市の防災無線や緊急速報メール、テレビやラジオでも放送されます。

まずは正確な情報を入手することが大切です。

市では、新たな被害想定を踏まえ、津波避難計画を改訂し、警報・注意報で発表される予想津波高ごとに避難目標ラインを設定しています。ただし、巨大地震の場合、精度のよい予想津波高等をすぐに求めることができず、「巨大」や「高い」という言葉で発表される場合もありますので、浸水想定区域外のより高い場所まで避難することを心がけてください。



(停電等で情報が入手できないなど)
迷ったときは、避難開始!

新しい津波避難計画はこちら

